

水の大切さ

手を洗いたいときに手を洗う。喉が渴いたら水を飲む。汗をかいたらシャワーを浴びる。トイレで用を足せば流す。

私たちは、水道の蛇口をひねれば、水が出てくるのが当たり前の生活を送っています。そして、ほとんどの人が日々水のありがたさなどを考えずに水を使っていると思います。私は今までに、水が使えないという環境になったことがないので、水がなくて困ったということがあります。そして、私の周りのほとんどの人も同様だと思います。しかし、今でも世界のどこかで水が不足しています。飲用に適さない汚れた水を飲まなければならぬ人々もいます。そして、汚水を飲み、病気になったり、命を落とす子どもたちもたくさんいます。

そういったことは、テレビやインターネット

奈良市立富雄第三中学校 三年

高尾 美良

ト上の遠い国のことだと思ってしまう。けれども、実際世界人口の四割以上に相当する約三十六億人が水不足に悩まされているというのです。

私は、オーストラリアに住んでいる、母の友人から聞いた水不足にまつわる話を思い出しました。

オーストラリアは、乾燥大陸であり、水不足は深刻なものだそうです。海に囲まれている国で、私にはそのイメージはあまりありませんでした。しかし、砂漠化が進んでいて、水はとても大切な資源だと認識されています。オーストラリアでは、給水制限が行われることがあるそうです。母の友人は、普段からシャワーを浴びるのも、洗濯するのも毎日ではないそうです。うちでは、毎日何回も洗濯をしているし、夏には一日に何回もシャワー

を浴びています。そのような生活をしている私の家では考えられないことだと思いました。そして、その生活は、遠い国ではなく、知っている人が住んでいる国でも起きているというところで、水のありがたさを改めて感じました。

学校で資源には限りがあると学びましたが、水も同じだと思えます。あつて当たり前のものですが、ないと困る大切なものです。大切なものを守っていくために私たちができること、それは小さなことから始めればよいと思います。たとえば、普段から節水を心がける。日本では、水道の蛇口をひねればいくらでも水が出てきます。私は水を無駄遣いしているつもりはないけれど、これからも以上に節水を意識していきたいと思えます。

その小さな意識が水を守る、ひいては、それが私たちの住む地球を守ると信じて。